

平成19年度  
環境活動レポート

(平成 19年 4月 1日～平成 20年 3月 31日)

神鋼メタルプロダクツ株式会社

平成 20年 5月

**(1)事業所名、所在地および代表者**

事業所名：神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社及び本社工場  
所在地：福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号  
代表者：代表取締役社長 尾崎 幸一

**(2)環境管理責任者および連絡先**

環境管理責任者：常務取締役工場長 和田 克利  
連絡先：総務担当係長 松浪 誠一  
TEL(093)381-1331 FAX(093)381-3731

**(3)生産品目**

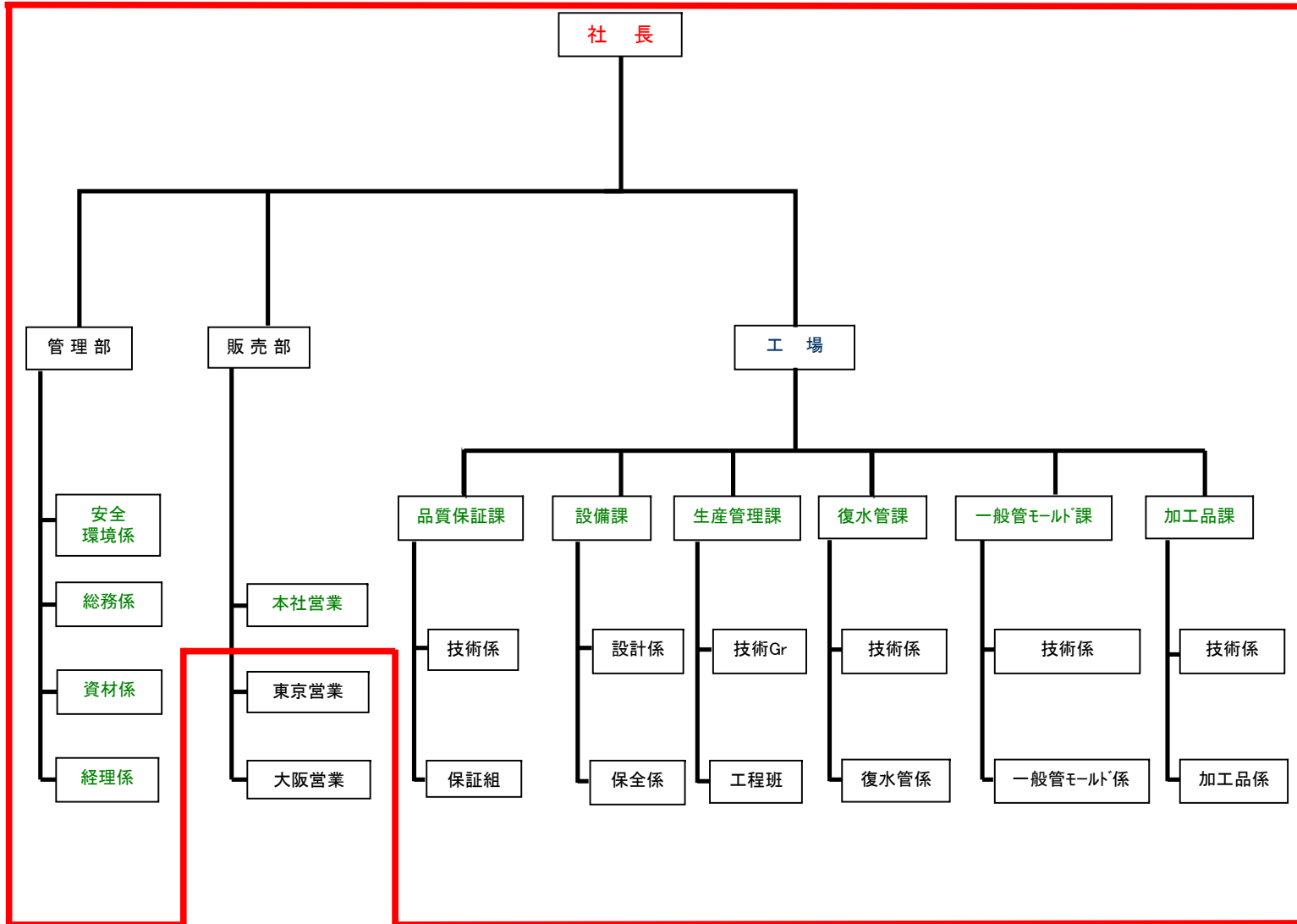
復水管、銅・銅合金管、モールド、複合製品、熱交製品、その他各種加工品

**(4)事業の規模**

売上高：110 億円  
従業員数：242 名  
敷地面積：52,000 m<sup>2</sup>  
建屋面積：32,400 m<sup>2</sup>



(5) 認定対象部署



EA21 認定対象部

## 環 境 方 針

### 1. 基本理念

神鋼メタルプロダクツ株式会社は、地球環境の保全がすべての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが使命であると認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、事業活動のあらゆる面において、環境に配慮して行動することを決意します。

### 2. 行動指針

全員参加による下記取組みを継続的に推進します。

1. 環境負荷低減の推進
  - ・省エネルギーの推進
  - ・廃棄物の削減及びリサイクル化の推進
  - ・水使用量の削減
2. 環境関連法規則の遵守
3. 社会、地域との共生
4. 従業員への教育、訓練

平成18年10月1日

北九州市門司区小森江2丁目2番1号

神鋼メタルプロダクツ株式会社

代表取締役社長 尾崎 幸一

## 3 環境目標と実績

## 1. 目標の達成状況

当社は、H18年10月よりEA21を構築し、環境活動に取り組んできました。  
 H18年度の環境目標と実績は以下の通りです。  
 二酸化炭素排出量削減、上水+地下水総使用量削減、産業廃棄物排出量削減のいずれも  
 目標をクリアできませんでした。

目 標 項 目		単 位	H17年度 EA21基準年	H18年度 実 績	H19年度 目 標	H19年度 実 績
1	二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO <sub>2</sub> /生産数量 (ton)	1.786	1.635	1.618	1.630
2	上水+地下水 総使用量の削減	m <sup>3</sup> /生産数量(ton)	5.998	5.249	5.196	5.353
3	産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	213	162	160	215

## ※ 二酸化炭素排出量：

H19年度実績は、原単位でH2年度(京都議定書の基準年)より26%削減しています。  
 また、総量で約30%削減しています。

## 上水+地下水総使用量：

H19年度実績は、原単位でH9年度(管理スタート基準年)より約31%削減しています。  
 また、総量で約28%削減しています。

## 産業廃棄物排出量：

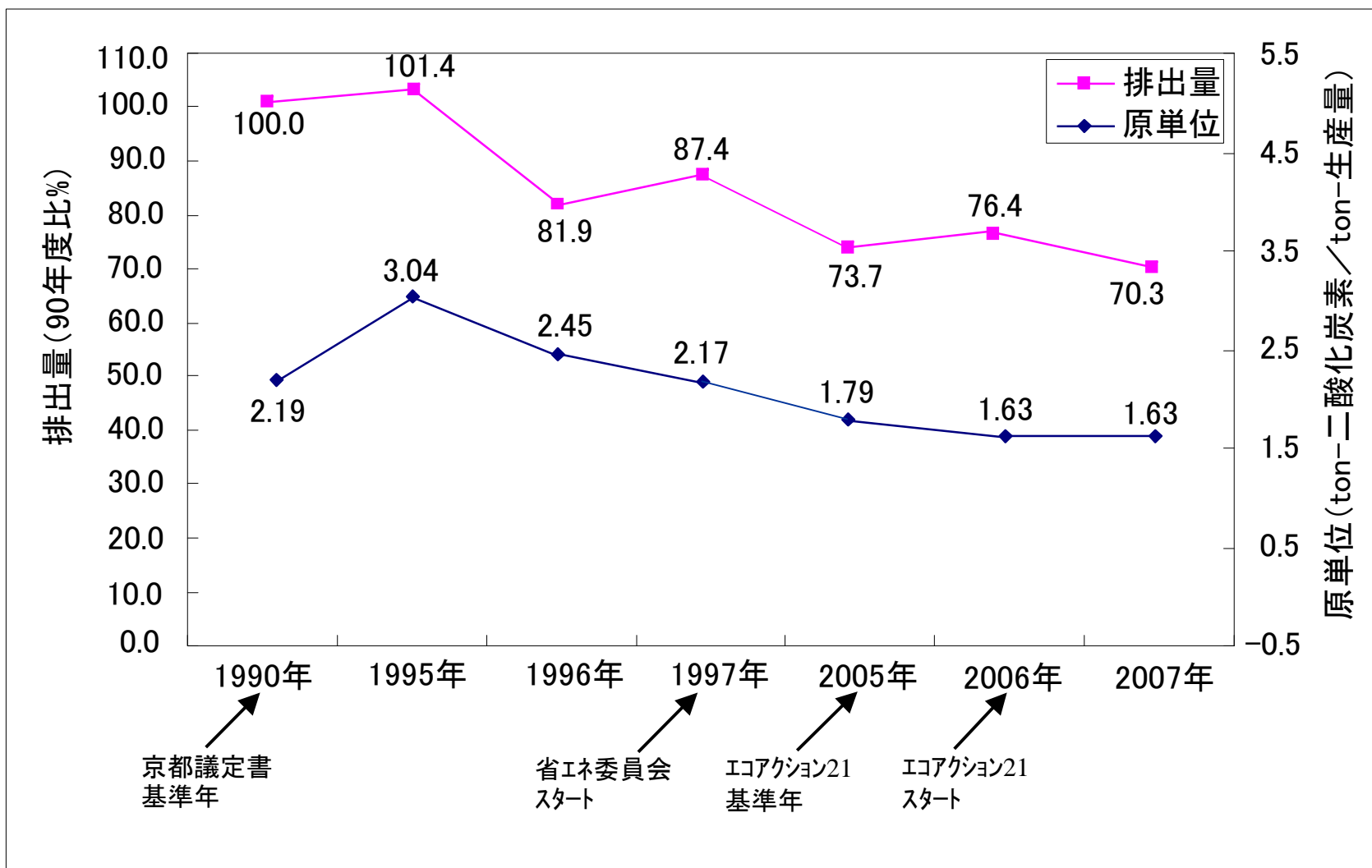
H19年度実績は、H12年度(廃棄物削減プロ基準年)より、51%削減しています。

## 2. 今年度以降の目標

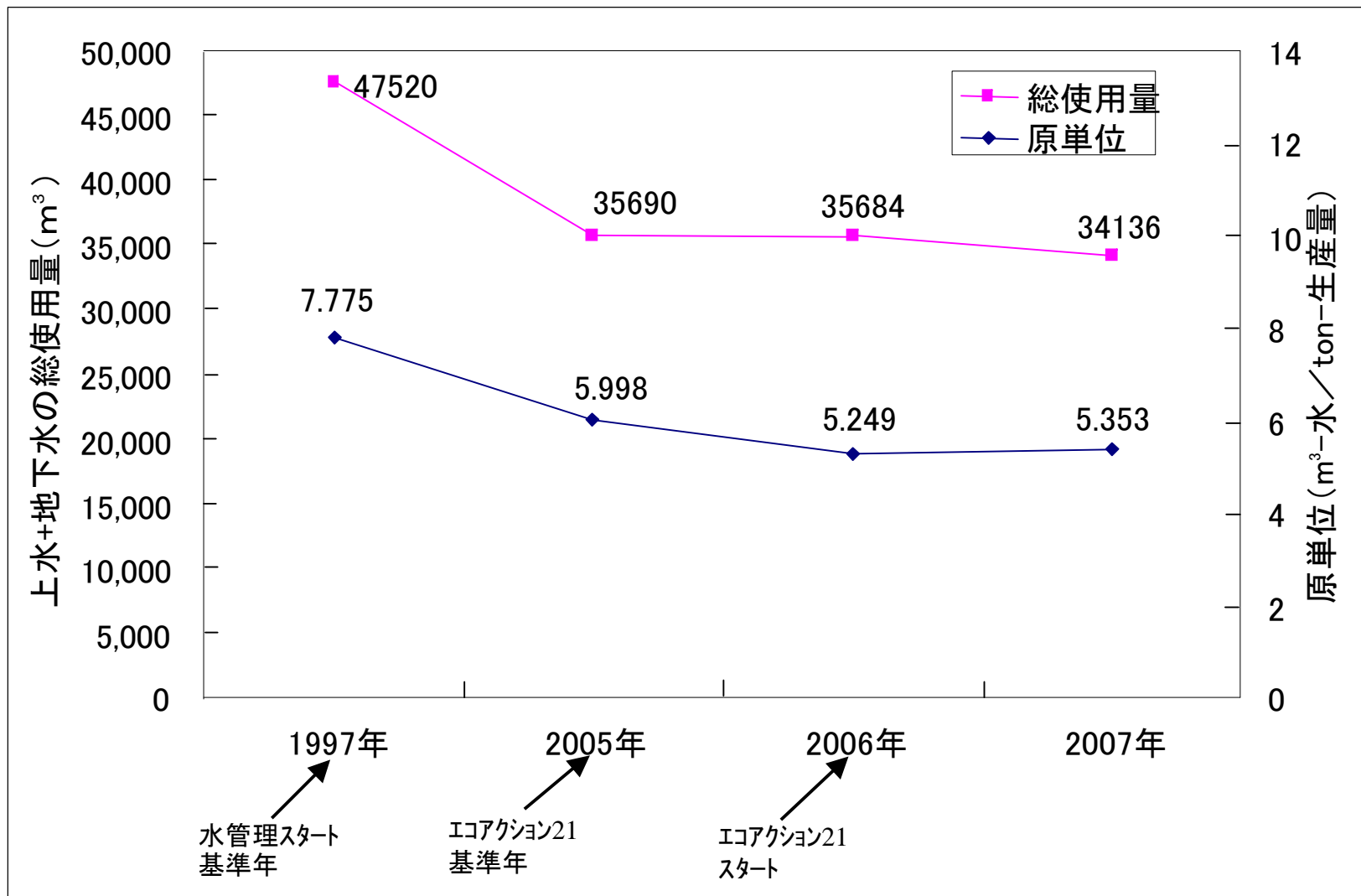
目 標 項 目		単 位	H18年度 実 績	H19年度 実 績	H20年度 目 標
1	二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO <sub>2</sub> /生産数量 (ton)	1.635 (8%)	1.630 (9%)	1.602以下 (10%)
2	上水+地下水 総使用量の削減	m <sup>3</sup> /生産数量(ton)	5.249 (12%)	5.353 (11%)	5.144 (14%)
3	産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	162 (24%)	215 (-1%)	157 (26%)

( )内%はEA21基準年削減率を示す

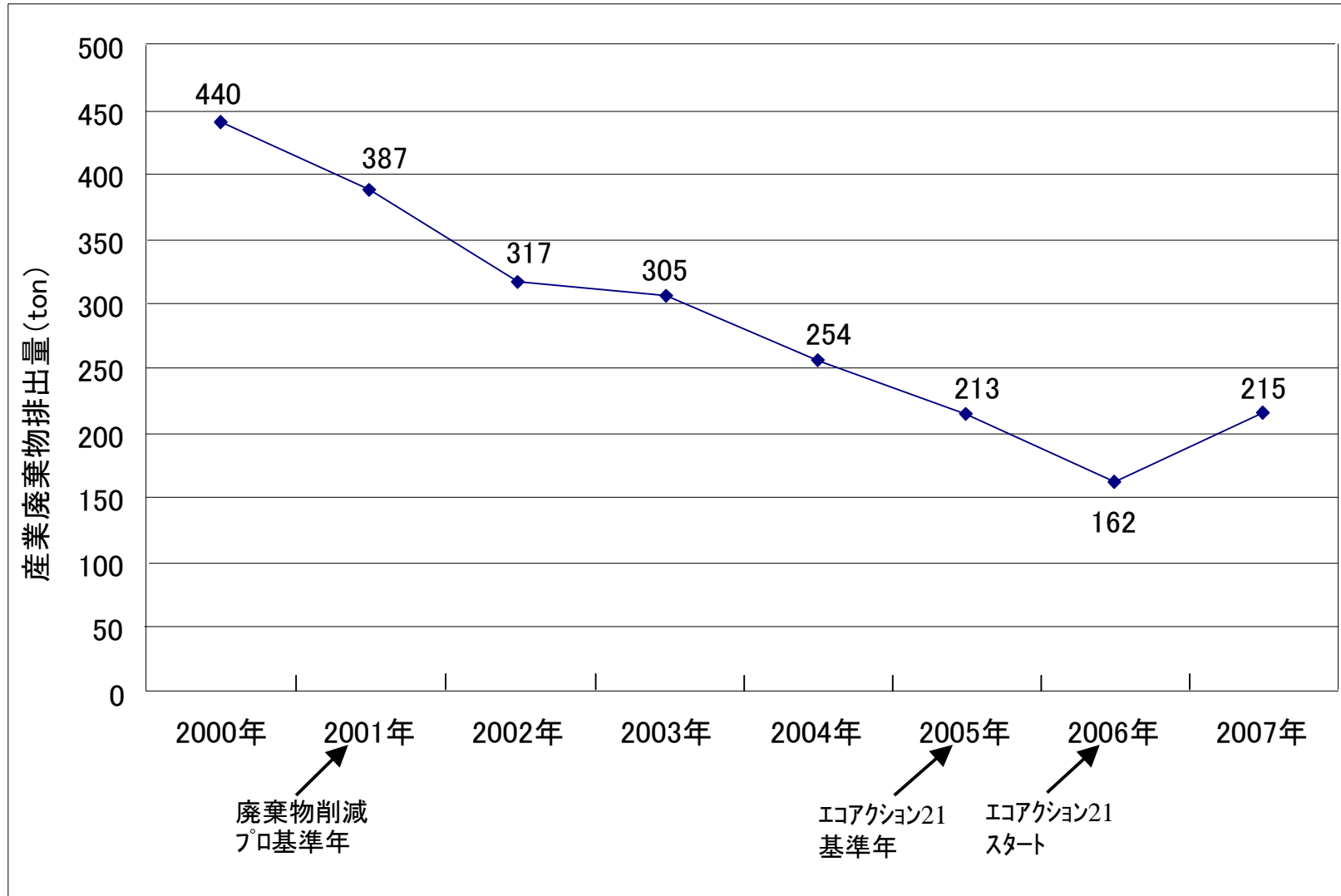
# (1)温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量と原単位の推移



## (2) 上水+地下水の総使用量と原単位の推移



### (3)産業廃棄物の排出量の推移





## 1. 二酸化炭素排出量削減のための取組み

### (1) 電気使用量の1%削減

- 銅合金溶解炉の同時2基稼働率を向上し、集塵機原単位の向上を図ります。
- 旧型変圧器を低損失型に順次リプレースしていきます。
- 圧延機への材料供給時間の短縮行い、原単位の向上を図ります。
- 中間炉のローラー変速を手元遠隔操作に替え、生産性を向上し、原単位の向上を図ります。
- 空調設備・照明器具・製造設備のON-OFFをこまめに実施します。

### (2) 都市ガス・A重油使用量の1%削減

- 光輝炉のDXガス量を削減します。
- No1ガス焼鈍炉の焼鈍量:1t/回以上と連続操業により、原単位の向上を図ります。
- エンジンコンプレッサーの使用範囲の厳格化と運転時間の短縮により、A重油使用の低減を図ります。

### (3) 灯油使用量の削減

- 灯油ストーブを電気ストーブに順次置き換えます。

## 2. 上水+地下水使用量削減のための取組み

- めつき製品の水洗水をめつき槽にリターンし、上水補給量の低減を図ります。
- 中間炉酸洗場の地下水を常時補給からPH値による自動補給化を行い、補給量の低減を図ります。
- 地下ピットの雨水を酸洗水への使用を検討します。
- 節水のラベル貼りによる意識付けを行います。

## 3. 産業廃棄物排出量削減のための取組み

### (1) 廃油排出量の削減

- ローフィンチューブ洗浄廃液の凝縮分離装置の設置を図ります。
- 圧延機クランク潤滑油の再利用を図ります。
- 含水汚泥の減量化を図ります。
- 点検強化と早期修理により、油圧配管の油漏れ防止に努めます。

### (2) 廃酸排出量の削減

- めつき設備新調時に設備改造を行い、めつき廃酸スラッジの低減を図ります。
- ケニコートNi廃液の処理装置の導入を図ります。

### (3) その他

- シュレッダー紙の活用を図ります。
- 配布資料の電子化を図ります。
- 分別強化によるリサイクル量の向上をはかります。

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

#### (1) 電気使用量の削減

- 低圧動力用の500KVAトランスを低損失型に更新しました。
- 50ALLOYの挿入量アップ(4→8コイル/回)により、原単位が向上しました。
- 事務所フロア照明をブロック単位から、手元スイッチによる1灯毎のON-OFF化により、不要時の電力を削減しました。
- パソコン・スクリーンセーバーの自動OFF時間を5分以内に統一し、不要時の電力を低減しました。

#### (2) 都市ガス・A重油使用量の削減

- 光輝炉のDXガスを休憩時間中に絞ることで、都市ガスを低減しました。
- 湯槽、湯洗槽、K2C槽の側面断熱工事により放熱ロスを低減しました。
- エンジンコンプレッサーを可能な限り停止し、電動コンプレッサー運転によりA重油の使用量を低減しました。

#### (3) 灯油使用量の削減

- 電気ストーブに全て置き換えました。

\* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。

### 2. 上水+地下水使用量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

- めっき製品の水洗水をめっき槽にリターンし、上水補給量を低減しました。

\* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。但し、地下ピットの雨水は、使用場所までの配管工事等で費用対効果が出ず、断念しました。

### 3. 産業廃棄物排出量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

#### (1) 廃油排出量の削減

- 含水汚泥の減量化を行いました。

#### (2) 廃酸排出量の削減

- めっき設備新調時に設備改造を行い、めっき廃酸スラッジの低減を行いました。

#### (3) その他廃棄物排出量の削減

- シュレッダー紙を梱包用クッションとして活用しました。
- 会議開催連絡、資料、議事録等を電子メールによる配布を推進しました。

\* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。

### 4. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社に係わる環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘おのび利害関係者からの訴訟や苦情は、過去3年間ありませんでした。